

平成28年度  
学校関係者評価報告書



厚生労働大臣指定 保育士・介護福祉士・柔道整復師・作業療法士・理学療法士 養成校

郡山健康科学専門学校

## 平成28年度 学校関係者評価報告書

郡山健康科学専門学校  
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「平成27年度 自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を行いました。  
その結果を以下のとおり報告いたします。

### 【第1回目】

#### 1.開催日時と場所

日時:平成28年8月10日(水)、13時30分～15時00分

場所:郡山健康科学専門学校 8階PTOT講義室

#### 2.出席委員

■学校関係者評価委員会(委員数13名、出席委員8名、委任状提出委員4名、欠席1名)

出席委員(8名)

- ・関根 忠男(松尾病院 リハビリテーション部 部長、理学療法士)
- ・平野 雄三(南東北春日リハビリテーション病院 リハビリテーション科 科長補佐、理学療法士)
- ・佐久間 崇(船引クリニック 理事、理学療法士)
- ・佐藤 正彦(柘記念病院 リハビリテーション室 室長、福島県作業療法士会 理事、作業療法士)
- ・木田 佳和(介護老人保健施設 檜葉ときわ苑 副施設長、作業療法士)
- ・武藤 竜也(医療福祉業界専門パソコンサポーター むとうドットコム 代表、作業療法士)
- ・佐藤 庄伸(社会福祉法人 埴町社会福祉協議会 通所介護事業所 管理者、介護福祉士)
- ・矢部 真裕美(特別養護老人ホーム うねめの里 施設長、管理栄養士)

委任状による出席委員(4名)

- ・都築 光一(東北福祉大学 総合福祉学部 福祉行政学科 教授、日本地域福祉学会 理事)
- ・小坂 徹(東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授)
- ・神戸 信行(青葉学園 常務理事)
- ・野崎 久美子(あさひがおか乳児分園 主任、保育士)

欠席委員(1名)

- ・吉津 大介(グループホーム あいの里 取締役統括管理者、介護福祉士)

■教職員(18名)

渡辺 信英(学校長)、遠藤 敏裕(教務部長、理学療法学科 学科長)、牛井 渕 浩三(事務長)  
吉崎 邦夫(理学療法学科 主任、広報委員長)、橋本 雅郎(理学療法学科 主任、入試委員長)  
小形 洋悦(応用理学療法学科 学科長、国際交流委員長)、国分 義之(教務委員長)、  
楊 箸 隆哉(研修・研究部長、こども未来学科 学科長)、中村 智加枝(介護福祉学科 学科長補佐)  
薄井 俊介(作業療法学科 主任)、安藤 由香里(厚生副委員長)、佐々木 広人(理学療法学科 教員)  
細川 梢(こども未来学科 主任)、鍋山 友子(こども未来学科 教員)山本 満智子(介護福祉学科 教員)  
高野 真一(作業療法学科 教員)、三瓶 健司(事務部 次長)、遠藤 浩之(事務部 主任)

#### 3.次第

- 1) 学校長挨拶
- 2) 学園代表者挨拶
- 3) 委員紹介(自己紹介形式)
- 4) 職業実践専門課程について
- 5) 自己点検評価の報告
- 6) 意見交換会
- 5)の報告をもとに、ご意見をお願いいたします。
- 7) 校舎見学(希望者のみ)、解散

## 【第2回目】

### 1.開催日時と場所

日時:平成28年11月25日(金)、13時30分～15時00分

場所:郡山健康科学専門学校 8階PTOT講義室

### 2.出席委員

■学校関係者評価委員会(委員数13名、出席委員8名、委任状提出委員4名、欠席1名)

出席委員(8名)

- ・関根 忠男(松尾病院 リハビリテーション部 部長、理学療法士)
- ・平野 雄三(南東北春日リハビリテーション病院 リハビリテーション科 科長補佐、理学療法士)
- ・佐久間 崇(船引クリニック 理事、理学療法士)
- ・佐藤 正彦(柘記念病院 リハビリテーション室 室長、福島県作業療法士会 理事、作業療法士)
- ・武藤 竜也(医療福祉業界専門パソコンサポーター むとうドットコム 代表、作業療法士)
- ・吉津 大介(グループホームあいの里 取締役統括管理者、介護福祉士)
- ・小坂 徹(東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授)
- ・野崎 久美子(あさひがおか乳児分園 主任、保育士)

委任状による出席委員(4名)

- ・都築 光一(東北福祉大学 総合福祉学部 福祉行政学科 教授、日本地域福祉学会 理事)
- ・佐藤 庄伸(社会福祉法人 塙町社会福祉協議会 通所介護事業所 管理者、介護福祉士)
- ・神戸 信行(青葉学園 常務理事)
- ・矢部 真裕美(特別養護老人ホーム うねめの里 施設長、管理栄養士)

欠席委員(1名)

- ・木田 佳和(介護老人保健施設 檜葉ときわ苑 副施設長、作業療法士)

■教職員(17名)

渡辺 信英(学校長)、遠藤 敏裕(教務部長、理学療法学科 学科長)、

楊箒 隆哉(研修・研究部長、こども未来学科 学科長)、牛井 渕 浩三(事務長)、千葉 正久(法人本部 主任)

吉崎 邦夫(理学療法学科 主任、広報委員長)、橋本 雅郎(理学療法学科 主任、入試委員長)

佐々木 広人(理学療法学科 教員)、薄井 俊介(作業療法学科 主任)、高野 真一(作業療法学科 教

國分 義之(柔道整復学科 学科長、教務委員長)、中村 智加枝(介護福祉学科 学科長補佐、厚生委員)

山本 満智子(介護福祉学科 教員)、細川 梢(こども未来学科 主任)、鍋山 友子(こども未来学科 教

三瓶 健司(事務部 次長)、遠藤 浩之(事務部 主任)

### 3.次第

- 1) 開始の挨拶
- 2) 委員紹介【全委員、自己紹介形式にて】
- 3) 前回議事録の確認
- 4) 前回出されたご意見への返答
- 5) 意見交換会
- 6) 終了の挨拶、解散

## 1.学校の教育目標

### ■教育理念

#### ○本学における教育の基本理念

本学の目的は、医療・福祉・保育分野における優れた専門家を養成し、地域社会に貢献することである。そのために必要とされる基本的な知識、技術及び人間としての態度を修得させ、専門職としての誇りと自覚を持ち、明るく健康的な地域社会、地域医療及び地域福祉を形づくことに貢献し得る有能な人材を養成するための教育を実現します。

#### ○教育方針

本学では、基本理念に則り、学生が自ら以下のことがらを達成できるよう、教職員全員が協力して支援することを教育方針とします。

##### (1) 専門職として最低限必要なことがらを修得する

医療・福祉・保育分野における専門職として必要とされる、基本的な知識・的確な技術・人間としての態度をバランス良く修得する。

##### (2) 社会的に自立する

社会人としてそれぞれの目標を持って自立し、自己の意見・判断をしっかりと持ちながらも、他人を思いやり周囲と強調して行動できる。

##### (3) 地域との連携ができる

教育・研究・奉仕活動を通じて地域社会に貢献するとともに、複雑化する情報化社会にも適切に対応して地域社会との交流と連携ができる。

##### (4) 国際的な視野を持つ

国際的な視野を持って活躍でき、世界中の人々と積極的にコミュニケーションがとれる。

## 2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1.本学において改善を要する事項を点検・確認する。
- 2.社会人基礎力の修得やコミュニケーション能力の向上等、改善に努める。

評価期間：平成27年4月1日より平成28年3月31日まで

評価：A…優れている B…標準的である C…今後の課題とする D…改善を要する

※全ての評価項目が本学に該当するものである。

① 教育理念・目標		評価
評価項目	1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	B
	2 学校における職業教育その他の教育指導等の特色はあるか。	B
	3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	B
	4 上1～3は学生・保護者に周知されているか。	B
	5 上1は業界のニーズに合致し、方向付けられた内容か。	B
現 状	1 学則により明確に定められている。	
	2 現場での経験豊富な教員により、職業教育を意識した指導を行っている。	
	3 いずれの学科もニーズが高まり、高い求人数を維持している。	
	4 教育理念・目標等は学生便覧により周知を図られているが、教職員の意識に差がある。	
	5 業界のニーズを反映した内容と思われるが、学科別のものもあっても良いと思われる。	
課題と改善策	教育理念などをシラバスの中で具体化できるようにする。また、ホームページを見直し、保護者や関係施設等に広く広報し、方針の徹底を図る。	

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

② 学校運営		評価
評価項目	1 目的に沿った運営方針が策定されているか。	B
	2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	B
	3 運営方針は教職員への周知徹底はなされているか。	B
	4 運営組織や意思決定機能は、規程等により明確化され、有効に機能しているか。	B
	5 人事・給与に関する規程等は整備されているか。	B
	6 教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。	B
	7 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	B
	8 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	B
	9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B
現 状	1 委員会を中心に校務運営に努め、運営会議にてこれらの意思決定等がなされる。	
	2 委員会にて作成している。さらに、年度末にはこれらが事業報告書にまとめられる。	
	3 学校長により全体会議にて周知されている。	
	4 学内稟議書式、就業規則等により明確に定められ、機能している。	
	5 就業規則や人事考課の実施等により整備されている。	
	6 予算に基づく予算執行簿や稟議書等により適切に実行されている。	
	7 関係法令の遵守、社会規範の遵守を教職員に適時適切に指示・訓示を図り、学生にも周知させるよう努めている。	
	8 個別の案件に応じ、適宜公開する用意がある。	
	9 業務の効率化にインフォクリッパーが役立っているが、セキュリティが十分とはいえない。	
課題と改善策	インフォクリッパーのセキュリティ強化と、運用のための専門家を雇い管理する。	

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

③ 教育活動		評価
評価項目	1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	B
	2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保はされているか。	A

評価項目	3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	B
	4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	B
	5	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	B
	6	関係分野における実践的な職業教育(実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	A
	7	授業評価の実施・評価体制はあるか。	B
	8	職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	B
	9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	B
	10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	B
	11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	B
	12	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保する等マネジメントが行われているか。	B
	13	関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成等の資質向上のための取組が行われているか。	A
	14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	A
	現 状	1	シラバス作成時に、教育理念や目標が周知されず、十分には反映されていない。
		2	教育到達レベルの確認のため、学科により卒業試験等を実施し、質の確保にも努めている。
3		様々な高校からの入学に対応するため、体系的に編成されている。	
4		実習指導者会議や実習地訪問で得た現場の意見を、適宜、教育活動に活用している。	
5		意見等は活用しているものの、具体的なカリキュラム変更には至っていない。	
6		職業教育は、各学科のカリキュラムの中で体系的に位置づけられている。	
7		教務部長を中心に企画・運営・実施がなされている。	
8		教育課程編成委員会により意見提言を受け、改善に努める予定である。	
9		学則及び学生便覧により明確に定められている。	
10		国家試験対策により、国家試験の受験直前まで担当教員にて指導している。	
11		本学の教員は皆、人材育成目標に合致した者を採用しているが、時には特別講師等を招聘し、講義を行っている。	
12		教員間に情報交換や現場との連携により、マネジメントが図られている。	
13		各学科、関連する学会、研修会等への積極的な参加を促し、教員も積極的に参加している。	
14		FD委員会を中心に、企画・運営・実施がなされている。	
課題と改善策	詳細なシラバスの見直しを行う。		

## ■学校関係者評価委員会による評価

・実習生をみると何がしたいのか、何を言いたいのか、何を聞きたいのかを上手く示せないという、コミュニケーション能力の低い者が増えてきた。この点を強化するような取り組みを望みたい。

・前回の実習で指摘(課題)を受けても、この点を理解せず(改善せず)に実習に臨む学生がいる。次の実習前に改善する努力も大事だが、こういった指摘(課題)を次の実習先に開示し、共有し合い、解決を図るような取り組みも必要と考える。また、教育活動の中で、教育到達レベルを確保しているかとあるように、目標設定をはっきりと示し、実習に臨ませた方が良いと考える。

・学生として貴学に在籍していた際、臨床実習は8週間であったが、現在は7週間と短縮されている。現場としては、もう1週間増やし、この時間を現場でのコミュニケーションの時間に当てることで精神的なストレスの軽減の時間としてはどうかと考える。

・現場では、高齢者を対象としたリハビリのニーズが上昇している。病院だけで働く理学療法士だけではなく、老年期も対象とした理学療法士の養成にも力を入れてほしいと考える。

・前に勤務していた施設で貴学の臨床実習生を見た際、身体能力の評価については概ね習得しているが、生活能力の評価については知識が浅いと感じた。介護施設へ実習に行き、こういった施設での作業療法士の役割を初めて知る学生もおり、この点については、強化してほしいと考える。

・現場では、入所者へ挨拶することや、声掛けをすることは非常に大事なことである。これを学生に命じるばかりでなく、まずは率先して養成校の教員自身が行うことが非常に重要である。

・コミュニケーション能力の強化について、話をすれば身に付くものでもなく、社会人になれば自然と身に付くものでもない。専門のセミナーを受講する必要もあるのではないか。

・PT、OTとしての取り組み、介護福祉士としての取り組み、それぞれの専門性を活かし、双方が連携し合い、まとめあげ、対象者をどのようにして良くしていくかを連携して考える活動が必要である。

・実習生の姿を見ていると、初めて現場に入るということで、非常に緊張している様子が伺える。学生の個性、性格もあるため、学校の教員とも連携し、何を学んでほしいのか、学生に合わせた指導とは何かを考えながら指導している。そのために、学校の教員とコミュニケーションを深め合いながら学生を支えたいと考えている。

・実習前に学生の弱い点を把握しておけば、まずはその点を指導してからそれに当たらせることができるため、学生にも過度なプレッシャーがかからずに済む利点がある。実習は学校教育の一環のため、個人情報だと頑なにならず、共有し合うことも必要であると考えられる。

・介護福祉学科における、コミュニケーション能力の獲得については、やはり現場でないと身に付かない部分もあると考える。習得のため、実習指導者は協力して学生に関わることが大切である。

・保育士養成課程の教員を見ていると、学生を実習に出すまでは一生懸命であるが、出した後は放置しているように感じる。実習が終わった後のフォローが一番大事であり、この点が疎かになっていると感じる。

④ 学修成果		評価
評価項目	1 進学率や就職率の向上が図られているか。	A
	2 資格取得率の向上が図られているか。	B
	3 退学率の低減が図られているか。	B
	4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	B
	5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	B
現状	1 卒業年次にハローワークによる講習会や学校主催の就職説明会により図られている。	
	2 国家試験対策やグループ学習により向上が図られている。	
	3 担任により様々な方策を講じているものの、退学率が高い。	
	4 新聞や人からの伝達で聞く程度で学校として積極的に把握はしていない。	
	5 卒業後は近い者の情報しかなく、そこから情報を得ても学校の教育活動の改善には至らない。	
課題と改善策	退学率の軽減を入学からの年次計画の中で行う。	

#### ■学校関係者評価委員会による評価

- ・貴学は県内の卒業生との関わりが非常に希薄である。
- ・卒業生の中でも現場で頑張っている者も多いため、学校として把握し、交流を深めてほしいと考える。

⑤ 学生支援		評価
評価項目	1 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	A
	2 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	B
	3 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	B
	4 学生の生活環境への支援は行われているか。	B
	5 保護者と適切に連携しているか。	B
	6 卒業生への支援体制はあるか。	C
	7 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	B
	8 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	B
現状	1 各種就学資金制度や奨学金制度、学園奨学金制度により支援している。また延分納入にも応じている。	
	2 年に1度、健康診断を実施し、保健担当教員にて維持・管理に努めている。	
	3 基本的には学生が主体となり、担当教員により適宜、支援している。	
	4 学生寮入寮者については、年に1.2度交流会を行っている。その他の一人暮らし者は担任にてフォローに努めている。	
	5 保護者との連携が不十分である。	
	6 卒業生について、求人票の閲覧は可能だが、その他の支援は不十分である。	
	7 ハローワークより、委託訓練事業訓練生を受け入れ、再就職を支援している。	
	8 直接的な他校との連携は図られていない。	
課題と改善策	保護者会を学科毎に行い、密接な関係を構築する。	

#### ■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

⑥ 教育環境		評価
--------	--	----

評価項目	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	B
	2	学内外の実習施設、海外研修先について十分な教育体制を整備しているか。	B
	3	防災に対する体制は整備されているか。	B
現 状	1	各学科、指定規則により定められた施設・設備を有している。	
	2	学内外の実習施設、海外研修先について十分な教育体制を整備を有している。	
	3	個別に防災訓練に近い指導はしているが、全体的な防災訓練はしていない。	
課題と改善策	全体的な防災訓練を年次計画の中に入れる。		

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

⑦ 学生の受入れ募集			評価
評価項目	1	学生募集活動は適正に行われているか。	B
	2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	B
	3	学納金は妥当な額か。	B
現 状	1	広報委員会を中心に企画・運営され学生の確保に努めている。	
	2	学校案内やホームページ、各種広報ツールにより周知している。	
	3	入学金や授業料等の学納金が他校に比べて安くはない(高い)。	
課題と改善策	可能な範囲で学納金を見直す。		

■学校関係者評価委員会による評価

・介護福祉学科に限らず全体的な入学数の減少については、明確な将来設計を見いだせない経営側にも問題があるように感じた。片一方の問題ではなく、双方の問題として捉え、解決することが望ましいと考える。

⑧ 財務			評価
評価項目	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	B
	2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	B
	3	財務について会計監査が適正に行われているか。	B
	4	財務情報公開の体制整備はできているか。	B
現 状	1	現状に応じた財務運営に努め、安定した基盤の策定に努めている。	
	2	例年、予算建てを行い、その後の精査により、現状に即した予算・収支計画が行われている。	
	3	会計士、監事指導のもの、適正に運営されている。	
	4	財務情報が公開されていない。	
課題と改善策	財務状況の情報公開を行う。		

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

⑨ 法令の遵守			評価
評価項目	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	B
	2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	B
	3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	B
	4	自己評価結果を公開しているか。	B
現 状	1	例年、5.6月に行う学事報告等で適正に運営されているのを確認し、関係官庁へ報告している。	
	2	個人情報保護規程等を整備している。	
	3	自己評価を定期的には行ってはいない。	



	4	希望に応じ開示には応じるものの、公開(ホームページ)には至っていない。
課題と改善策	今後は自己評価を定期的に行い、問題点の改善に努める。	

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

⑩ 社会貢献・地域貢献			評価
評価項目	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	B
	2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A
	3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	A
現 状	1	ラッククラブやフットサル活動をする外部団体、各種研修会場として提供しているが、限られた団体のみへの提供しか行っていない。	
	2	担当教員を中心に積極的に参加するよう働きかけ、学生も積極的に参加している。	
	3	広報委員会にて出前講座を企画・運営し、多くの受講希望の声を頂いている。	
課題と改善策	公開講座や出前講座、学校での各種説明会等の場で学校を紹介し、より多くの方々に学校を知ってもらい広く地域に貢献できる施設となることを目指す。		

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

⑪ 国際交流			評価
評価項目	1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか。	B
	2	受け入れ・派遣について適切な手続きが取れる体制が整備されているか。	B
現 状	1	戦略はないものの、希望があれば応じる用意がある。(諸条件を満たした者に限る。)	
	2	留学生を受け入れる体制が未確立である。	
課題と改善策	今後、外国人介護福祉士の在留資格に関わる規制緩和を見据え、受け入れ体制を確立し、積極的に受け入れていく予定である。		

■学校関係者評価委員会による評価

特に意見等はなかった。

◎学校関係者評価委員会による評価【総括】

- ・実施している内容が、病院で行う病院機能評価の流れに似ている。その際にも自己点検では、C評価であったものはB評価に、B評価であったものはA評価に改善する努力を求められることから、貴学においてもその努力を行ってほしいと考える。
- ・協議内容について、解決したもの、解決しないものに分け、絞り込む作業が必要と考える。これにより、優先度や緊急性のあるものに分類することで、どれを中心に議論するがより分かり易くなると考える。
- ・職業実践専門課程を考えるうえで、そもそも「職業実践力」がこの課程を経ることで、どれだけ修得できたのか知る尺度がない。これは、カリキュラムにおける成績評価基準では測れないことであり、1年次では職業実践力がどのくらい備わっているのか、実習を通してどのように変化したのかを把握するための尺度基準を検討する必要がある。これがあれば、実習に行く際、現在の職業実践力を示すこともできると考える。